

I 実践

1 研究主題

思いやりをもって誰とでも仲良くできる仲間をつくる環境づくり

2 主題設定の理由

本校では、「一人一人の能力を伸ばし、心身ともにたくましい人間性豊かな児童の育成」を目標としている。それを受けて人権教育では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、分け隔てをしないで行動できる子を育てる」を目標の一つとしている。

そこで、学校教育活動全体を通して、分け隔てなく誰とでも仲良くできる児童の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 人権週間の実践

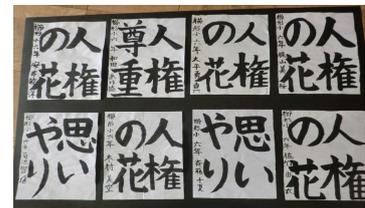
ア 人権メッセージを書く。

全学年が取り組んだ。低学年は、保護者と一緒にメッセージを考え、人権意識を高めるよい機会となった。中高学年は、友達や家族との関係で感じていることや自分の考えを体験をもとに書くことができた。

イ 人権書道

夏休み明けに5、6年生が取り組んだ。「人権尊重」や「人権の花」などの作品を心を込めて仕上げることができた。

金賞 9名  
銀賞 7名  
銅賞 4名 作品が入選した。



(人権書道)

ウ 人権教室

全校で朝のドリルの時間にビデオ視聴を行った。

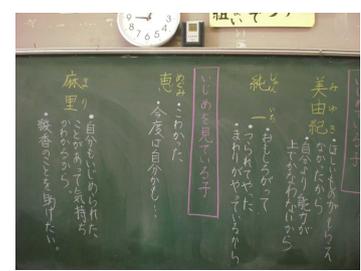
各教室で「いじめ」について考え、友達とどのように付き合ったら良い人間関係を築くことができるかをテーマとして学習を深めることができた。視聴後に感想文を書き、学年で一点選び、給食の時間に校内放送で発表した。



導入 (登場人物)



展開 (読み取り)



まとめ (意見発表)

(2) 人権教育の目標を基盤にした教科・特活指導

ア 豊かな心を育てる読み聞かせ

・朝の読み聞かせ

PTA ボランティアの方が絵本の朗読を行い、子供たちは静かに話を聞くことができた。人の話を聞く態度が育ち、落ち着いた学校生活を送ることができた。

イ 生活科での「人」との関わり

・なかよしフェスタ (1・2学年)

2年生が1年生を招待し、風や空気ゴムを動力にして動く簡単なおもちゃを製作し、1年生に体験させる交流学习を行った。1年生は、体験したことを来年新1年生に伝えることを予定している。

ウ 総合的な学習の時間

・総合的な学習の時間における発表会

高学年が、低学年に向けて学習の成果を発表する機会を設ける予定である。



(2年生製作おもちゃ)

## エ ボランティア活動

### ・あいさつ運動

周辺学校と地域住民に呼びかけ、あいさつの良さを訴えた。登校時間に校内外で「あいさつ声かけ運動」を行い、元気な気持ちの良い朝のあいさつを交わすことができた。

### ・愛校作業

校舎の清掃活動を通して、「気づき・考え・実行する」ことが身に付くように各学年ごとに計画を立てて取り組んだ。

## (3) その他

### ア なかよしタイム

なかよしタイムを設け、昼休みに異学年交流を行っている。

1～6年生の縦割り集団を編成し、班長を中心にそれぞれの班で計画した遊びを、年3回行っている。上級生は、下級生の面倒を見て、また、下級生は教えてくれる上級生に親しみをもって接することができ、楽しく活動することができた。

### イ 「十王地区敬老会」への参加（3学年）

お年寄りへの感謝といたわりの気持ちをもつことができた。



(交流の様子)



(おじいさん・おばあさんへお手紙①)



(お手紙②)



(お手紙③)

## 4 成果

「思いやり」「人権尊重」など人権書道の課題が提示され、今年も多くの児童が出品した。人権メッセージへの応募も全学年で取り組んだ。児童へ人権の大切さを訴えたことで人権に対する意識をもたせることができたと思う。人権教室を開いて全校一斉にビデオを見て「いじめ」について考えることができ、学習を深めることができた。

## II 今後の課題

人権書道コンクールと人権メッセージは、今後も継続して取り組んでいきたい。児童一人一人が自信をもって学校生活を送れるように、研修を充実させることで教師自身の人権感覚をさらに高めていきたいと考えている。